

1 本園の教育目標

こころ ゆたかに たくましく

- *豊かな感性をもち表現する子供を育てる *自分も友達も大切にする子供を育てる
- *自ら考え、生き生きと遊べる環境をつくる
- *一人ひとりの発達の特性に合った総合的な指導を行う

2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

- ①「やってみたい!もっとやりたい!~夢中になって遊び込める環境づくりについて考える~」
上記の努力目標達成のための手立てを考えて実践する。
- ②職員の連携を密に行い、子供の姿を共通認識し、ねらいをもって保育実践を進める。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
① 努力目標に向けて	A	子供の姿を捉え、「やってみたい」と思う環境構成について研究を重ね、安心して楽しめる環境づくりについて、職員間で共通認識をした。心身の成長と友達関係づくりにつながった。
②ねらいや指導内容を明確にし保育に取り組む	B	幼児教育の原点を職員間で学び、ねらいを明確化し共通認識を図った。子供達が自己発揮することで自信をもち、人との関わりやつながりをもてるようなクラス運営を行った。
③特別支援教育の充実	A	子供の発達や特性を理解し、職員間で協議を重ね、必要な手立てを考え支援してきた。また、保護者や他機関との連携を密に行った。

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	子供達が主体性をもって、遊びや人に関わり、毎日が充実するような保育内容を探求し、職員の連携を密に取り、保育を進めた。ねらいを明確化し、子供に寄り添った内容や援助、環境構成の研究を重ねることで、より「安心」を感じる保育の提供を行った。また、職員の資質向上となった。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
異年齢のかかわりを通しての保育	好きな遊びの時間設定を共通にし、異年齢交流ができる環境を作り、自然な関わりについて工夫する。小学校との交流や連携を大切にする。
保育内容の充実	保育のねらいを明確化し、日常の保育実践や環境構成について考え、研究を重ねていくと共に、教育課程や保育計画の見直しを図る。
職員の資質向上について	具体的な子供の姿を共有し、教材研究や指導方法などの交流を行う。研究委嘱園の研究発表において内容をまとめ、資質向上に努める。

◎3.4. の評価結果の表示方法

A十分達成されている B達成されている C取り組まれているが成果は十分でない D取組が不十分である